

## 第2学年 道徳学習指導案

日時 平成17年9月13日 2校時  
児童 山形村立山形小学校 2年教室  
第2学年 男子4名 女子10名 計14名  
授業者 柏木路子 (長期研修生)

1 主題名 かけがえのない命 (生命尊重 3 - (2))

2 資料名 ふしぎな音 (文溪堂)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする価値について

学習指導要領道徳の第2章、第1学年及び第2学年の内容の3「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の(2)に「生きることを喜び、生命を大切にすることをもち」とある。3の視点は、自己を自然や美しいもの、崇高なもののかかわりにおいてとらえ、人間としての自覚を深めることに関するものであり、生命あるものすべてをかけがえのないものとして尊重し大切にすることを育てようとする内容項目である。

生命の最も本質的な特色は、それがまったくただ1回限りのものであり、人間存在の根源となるかけがえのないものだという点である。生命を尊重するということは、生命の尊さに気づき、それをかけがえのないものとしてとらえ、大切にしていこうとすることであり、すべての道徳性の基盤となりうるものである。この生命については、人間だけにとどまらず、生きているすべてのものに対する尊重の精神が求められる。

生活体験のまだ少ない低学年の児童にとっては、日常生活の中で、命あるものとの触れ合いをおとした情緒体験を積み重ねていくことが、生命尊重の心をはぐくむ基盤になる。また、じっくりと自分の命について思いをはせて考えるような機会をもって、命があるからこそ人間はいろいろなことができるのだということに喜びを感じ、生命の大切さを自覚することは大切なことであると考えられる。

#### (2) 児童について

この時期の児童は、命は大切なものであるということは知っている。そして、生命に対する知識として、人間が生きているのは心臓が動いているからであることや心臓が止まると死んでしまうということは知っている。しかし、自分の命の大切さについてはあらためて考える機会は少なく、あつてあたりまえのものであり、そのかけがえのなさを実感している児童は少ない。

そこで、命があるからこそ人間はいろいろなことができることやその命には限りがあることに気付かせながら、命があることのすばらしさや生きていることの実感を味わえるようにし、かけがえのない命を大切にしようとする心情を育てる必要がある。

#### (3) 資料について

本資料は、校医の先生の命にかかわる話に驚いた主人公が、聴診器で自分の不思議な心臓の音を耳にし、たった一つしかない命への思いを深めていくという話である。

校医の先生の命にかかわる話に驚き、自分の命について知りたくなる主人公の気持ちに共感させながら、命があるからこそ人間はいろいろなことができることやその命には限りがあることに気付かせ、かけがえのない命の大切さについて考えさせるのに適した資料である。

#### (4) 指導にあたって

導入では、聴診器で自分の心臓の音を聞き合う活動を組み入れる。この活動により、命の響き、動きを感じることができ、驚きと興味をもって資料の範読を聞くことができるであろう。

展開前半では、心臓が動いているからこんなことができるという友だちの様々な意見を聞いて、「本当にそうだなあ。」とつぶやいた主人公に共感させたい。

展開後半では、心臓が動いているからできることをあげさせながら、生きていることの喜びを実感させ、命を大切にしていこうという思いを高めさせていきたい。

6 資料分析  
資料名「ふしぎな音」（文溪堂 2年）

場面	主人公の心の動き	子供の意識	発問
体験活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドキ、ドキっていってる。</li> <li>・なんか、不思議な感じ。</li> <li>・動いてる、動いてる！</li> </ul>	
資料を読み終えて		<ul style="list-style-type: none"> <li>（うれしそうな表情）</li> <li>（真剣な表情）</li> </ul>	
校医のふじわら先生からおきの話を聞いた場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・びっくりした。全然知らなかったなあ。</li> <li>・少しも休まないなんてびっくりだ。</li> <li>・心臓が止まったら、大変だ。</li> <li>・ぼくの心臓は、どうなってるのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・びっくりだ。心臓ってすごいんだね。</li> <li>・自分も初めて知ったよ。しょうた君もびっくりしただろうね。</li> </ul>	<p>ふじわら先生の話聞いたとき、しょうた君はどんな気持ちだったでしょう。</p>
	<p>驚き、不安</p> <p>↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命は、一人に一つだけだ。</li> <li>・心臓が止まったら、死んでしまう。</li> <li>・この音が聞こえなくなるといことは、命がなくなる、死ぬということだ。</li> </ul>	
聴診器で、自分の心臓の音を聞く場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これが、ぼくの音か。ちゃんと動いているぞ。</li> <li>・ドキ、ドキって力強いね。</li> <li>・これが止まったら、大変だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不思議な感じがしただろうね。</li> <li>・自分の心臓が動いていたから、安心しただろうね。（導入で聴いた音をイメージしながら。）</li> </ul>	<p>自分の心臓の音が聞こえたとき、しょうた君はどんな気持ちだったでしょう。</p>
	<p>不思議、安心</p> <p>↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命があるからできることについて考える。</li> <li>・もし、心臓が動かなくなったら？</li> </ul>	
みんなの意見を聞きながら、「本当にそうだなあ。」とつぶやく場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓が毎日、動いてくれるから、いろんなことができるんだ。</li> <li>・自分の命を、大切にしないといけないな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当にそうだなあ。</li> <li>・心臓のおかげで、いろんなことができるんだな。</li> <li>・もし、心臓の音がしなくなったら、いろんなことができなくなる。</li> <li>・命のことがわかってよかったね。</li> </ul>	<p>しょうた君は「本当にそうだなあ。」とつぶやくながら、どんなことを考えたでしょう。</p>
	<p>生命尊重</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命がなくなったら、好きなことだけでなく、生活の中のあたりまへの活動ができなくなるといことだ。</li> <li>・大切な命を粗末にしては、いけない。</li> <li>・命を大切にすることは、どういうことか。あるいは、命を粗末にするとは、どういうことか。</li> </ul>	
振り返り		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで、命のことをあまり考えたことがなかったな。</li> <li>・心臓さん、いつもありがとう。</li> <li>・命を大切にすることからね。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切にしたい思いを具体的に考える。</li> <li>・生きていることのすばらしさを感じる。</li> </ul>	

4 ねらい 命の存在やすばらしさに気付き、かけがえのない命を大切にしようとする心情を育てる。

5 指導展開案（指導実践2）

段階	<学習活動と主な発問>	<予想される児童の反応>	<指導上の留意点>
導入	<p>1. ねらいとする価値や資料に対する興味・関心をもつ。 命ってどんなものでしょう。</p> <p>2. 生活体験での思いを呼び起こす。 みんなの心臓の音は、どんな音が聞いてみましょう。</p> <p>3. 価値を自分なりに感じる。 ・資料「ふしぎな音」を聞いて感想を発表し、話し合いの方向性をつかむ。</p>	<p>・目に見えない。 ・大切なもの。</p> <p>・ドキッ、ドキッって音がするよ。 ・音が早いよ。 ・動いてるぞ。 ・なんだか不思議な感じがする。</p> <p>・心臓って休まずに働いていてすごいな。 ・心臓のおかげでいろいろなことができるんだな。</p>	<p>・命についての考えを自由に発想させる。</p> <p>・心臓の音を聞くことで、命の存在を感じ取らせる。</p> <p>・心に残ったことを話わせる中で話し合いの方向性をつかませる。</p>
展開	<p>4. 価値に対する様々な考え方を受け止める。 ・しょうた君の気持ちについて考える。 ふじわら先生の話聞いたとき、しょうた君はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>自分の心臓の音が聞こえたとき、しょうた君はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>しょうた君は、「本当にそうだなあ。」とつぶやきながらどんなことを考えたでしょう。</p> <p>5. よりよい生き方を目指そうと思いを高める。 毎日、動いている自分の心臓にどんなことをいってあげたいですか。</p>	<p>・びっくりした。 ・そんなこと知らなかった。 ・本当に死んでしまうのかな。 ・自分の心臓はどうなっているのかな。 ・自分の心臓は大丈夫かな。</p> <p>・これがぼくの心臓か。不思議だな。 ・力強く、ドキッ、ドキッって動いているぞ。 ・ちゃんと動いていて安心した。 ・これがとまったら、大変だ。</p> <p>・心臓が毎日動いてくれているからいろいろなことできるんだ。 ・命は一つしかないぞ。 ・命を大切にしよう。</p> <p>・いつもありがとう。おかげでできるよ。 ・道路でふざけたりして、命を無駄にしないように気をつけるよ。</p>	<p>・心臓が休まずに動いているという話への驚きと、自分の心臓が気になる主人公の気持ちをつかませる。 ・命は、とりかえられない一つだけのものだということや自分たちが気付かないときも動いていることをおさえておく。</p> <p>・体験活動タイプ での実感を基に、自分の気持ちと登場人物の気持ちを重ね合わせながら話し合わせる。 ・もし、心臓が動かなくなったら考えさせることで、命があるからこそできることについて考えさせる。</p> <p>・命は一つずつしかないこと、命があるからこそいろいろなことができるのだということについて考えることをとおして、生きている喜びを感じられるようにする。</p> <p>・体験活動タイプ を手がかりに振り返り活動を行い、自分の思いの中にある大切にしたい思いを確かめさせながら、よりよい生き方を目指そうという思いをもたせる。</p>
終末	6. 教師の話聞く。		・児童の日常の様子から事例を取り上げ、実践意欲につながるようにする。